

遠隔授業による国際看護・国際保健教育への試み
—JICA カンボジア保健プロジェクトの協力を得て—

森兼 眞理

奈良県立医科大学医学部看護学科

The Trial of international nursing and health program by
the distance-learning system with JICA Cambodia Health Project

Mari MORIKANE

Faculty of Nursing School of Medicine, Nara Medical University

キーワード：遠隔授業、国際看護、国際保健

1. はじめに

国際看護・保健に関する授業科目の根拠として、看護基礎教育は厚生労働省が示す「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」の「国際的観点から医療・看護の役割を理解する」ことが掲げられている（厚生労働省, 2011）。本学においても2009年より「総合看護学」の必修1単位「国際看護論」が開講されている（山名ら, 2013）。また助産教育においては全国助産師教育協議会（2012）の「助産師教育のコア内容におけるミニマムリクアイアメンツ」の項目として「専門職としての自律性」の中には「国内外のネットワーク作りへの参加」が含まれている。いずれも看護職として国内にとどまらず国際的な視野を持つことが期待されている。

青年海外協力隊の派遣累積中のうち看護師は30.6%、助産師は9.7%、保健師は8.6%である（青年海外協力隊派遣実績, 2014）。この実績から見ても途上国での看護職のニーズは高い。筆者は青年海外協力隊に保健師としてマレーシアに赴任し、助産専門家としてJICA カンボジア母子保健プロジェクト活動をした経験がある。今回看護学科の「国際看護論Ⅰ」と大学院助産学実践コースの「助産学概論」において、JICA（国際協力機構）カンボジアで展開している「助産能力強化を通じ

た母子保健改善プロジェクト」と「医療技術者育成システム強化プロジェクト」の協力を得て遠隔授業を行った。ここに準備から結果までを報告する。

文中の専門家とは、JICA の技術協力の形態の一つであり、開発途上国の協力現場に日本人専門家を派遣して相手国の行政官や技術者に必要な技術や知識を伝え、開発や啓発を行う（国際協力事業団, 2014）。現地協力者の大石氏は、「助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクト」において助産専門家として地方における助産研修システム構築を担当している。ヨルダン国での青年海外協力隊および助産専門家としての活動経験がある。虎頭氏は、「医療技術者育成システム強化プロジェクト」の看護教育・看護管理の専門家であり、カンボジアの看護教員の能力強化を目的としてタイでの看護学士ブリッジコースを支援している。青年海外協力隊およびNGOスタッフとしてホンジュラス国およびケニア国JICA 母子保健プロジェクト、カンボジア小児保健プロジェクトの活動経験を有する。

2. 遠隔授業について

文部科学省は遠隔授業について「高等教育の分野においても、遠隔地にあるキャンパスを衛星通信や光ファイバーなどで結び、テレ

ビデオ会議システムを活用して合同授業やシンポジウムを実施」することと紹介している(文部科学省, 1999)。看護系大学においても様々な活動が報告されている(宮越ら 2012, 辻村ら 2014)。なお今回利用したスカイプは Microsoft 社が開発した音声通話ソフトで、インターネット回線を経由してパソコンで行うテレビ電話システムである。本報告ではスカイプ授業を遠隔授業と同義語で用いる。図 1 は、遠隔授業のイメージと授業風景である。

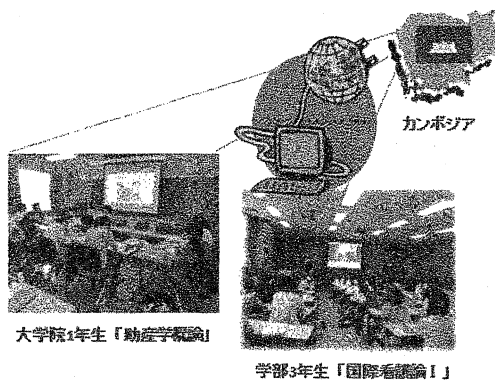


図 1 遠隔授業のイメージと授業風景

3. 授業概要

1) 準備

事前に、JICA カンボジアの「助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクト」と「医療技術者育成システム強化プロジェクト」の両プロジェクトリーダーおよび専門家に授業の趣旨を説明し遠隔授業の依頼をした。

使用媒体として、カメラ付きパソコンと学内無線 LAN の登録およびスカイプのアカウントを取得した。カンボジアとのテスト通信を行った際、映像は通信量が多く途切れやすかった。そのため事前に活動の写真をデータにして送ってもらい、当日はパワーポイントを使って音声のみによる講義をしてもらうこととした。事前学習として院生には、カンボジアの母子保健のレポート提出、学部生は講師より指定された JICA プロジェクトが発行するニュースレターを読む課題を課した。授業の概要は表 1 のとおりである。

表 1 授業の概要

| 科目名 | 助産学概論 | 国際看護論 I |
|-------|---|---|
| 対象 | 大学院生助産学実践コース 1 年生 5 名 | 学部 3 年生 86 名 |
| 授業日 | 2014 年 6 月 2 日 (月) | 2014 年 7 月 4 日 (金) |
| 授業テーマ | 助産師の国際活動と諸外国の助産 | 国際母子保健活動の経験から |
| 学習目標 | 1. カンボジアの母子保健活動から助産師の役割について述べる 2. スカイプ授業を通して助産師活動の可能性を考察することができる | 1. 開発途上国の事例から母子保健の課題を考察することができる 2. カンボジアとのスカイプ授業を通して看護師の国際活動が理解できる |
| 内容 | 前半 : 青年海外協力隊の事例と国連開発目標 (筆者担当) 後半 : 「助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクト」における助産師の役割 (スカイプ授業) | 前半 : 国際協力活動の実際と国際協力の仕組み (筆者担当) 後半 : 「医療技術者技術強化プロジェクト」における看護師の役割 (スカイプ授業) |

2) JICA カンボジア保健プロジェクトとは

カンボジアは、1970 年代後半まで続いた内戦の結果、保健医療状況は劣悪であり医療従事者も絶対的に不足していた。またアジアの中でも妊産婦死亡率が 470(出生 10 万対)と高く、出産時に専門家が立会う割合は 44%であった (UNICEF, 2007)。日本政府は 1995 年から母子保健プロジェクトを開始し国立母子保健センターを拠点に、病院運営、臨床技術指導、研修制度の整備に関する支援協力を行っている。

授業で取り上げた 2 つのプロジェクトを紹介する。「助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクト」これは、カンボジアの妊産婦死亡削減をめざし、病院や保健センターの助産能力の強化を推進する事業である。地方における助産ケアの改善のために、州病院に研

修部を立ち上げ指導者として助産トレーナーを育成し助産師研修システムの強化を支援している。

2つ目は、「医療技術者育成システム強化プロジェクト」である。国レベルで保健省と共に、看護の質の向上のよりどころとなる看護関連規則の整備をおこなっている。また看護教育の質向上のため教員をタイに留学させて看護学士号の取得後、指導者として活躍できるよう支援している。

4. 結果と考察

1) 大学院助産学実践コース「助産学概論」

助産専門家より自己紹介の後、プロジェクトの紹介があった。首都から約120km離れたコンポンチャム州病院がプロジェクトサイトである(写真1)。ここでは1か月に350から400件の出産がある。助産師の勤務は24時間シフト制である。病院に隣接して日本大使館による無償資金協力で建設した研修棟があり州内の保健センターの助産師の研修を行っている。州病院では、分娩室に助産師や家族が付き添って看護している状況が説明された。プロジェクト開始前は、家族が分娩室に入ることができなかったが、助産師研修の成果として、家族が産婦に付き添えるようになり助産師も熱心にケアを行うようになった。写真から産婦や家族が大切にされている様子が伝わってきた(写真2)。

カンボジアの助産師は、Secondary Midwife(正助産師)とPrimary Midwife(准助産師)に区分される。表2は、カンボジアの助産師と助産教育について示している。いずれも高校卒業後の教育課程を示している。Secondary Midwifeになるには3つの教育課程がある。大学では4年間、短大では3年間の助産教育が行われている。また3年間の看護学校を修了後、助産の専門学校の1年課程がある。Primary Midwifeは、高校卒業後専門学校を1年で修了し助産師になることができる。カンボジア保健省は、助産師不足解消のため短期間でPrimary Midwifeを養成

してきたが、知識や経験不足で助産の質の向上が課題となっているとのことであった。

表2 カンボジアの助産師と助産教育

| 助産師の区分 | 助産教育 |
|-----------------------------|--------------------------|
| Secondary Midwife (正助産師) | 大学(助産教育) 4年 |
| | 短大(助産教育) 3年 |
| | 看護学校3年 +専門学校(助産教育) 1年 |
| Primary Midwife (准助産師) | 専門学校(助産教育) 1年 |

母子保健改善プロジェクト資料集「広がる助産ケア」より作成。高校卒業後の助産教育を示す。

院生は、助産専門家に「助産師さんになったらどんなところに就職先するのですか」「実習でどれくらいお産を介助しますか」「貧しい人はお産の費用はどうするのですか」と質問をしていた。助産師の多くは、公務員となって公立病院や保健センターなどに配属される。実習では、日中だけでなく夜間の分娩待機も経験し多くの分娩介助を実施する。また貧しい人には、出産や入院費用を免除するシステムが存在するとのことであった。授業後の感

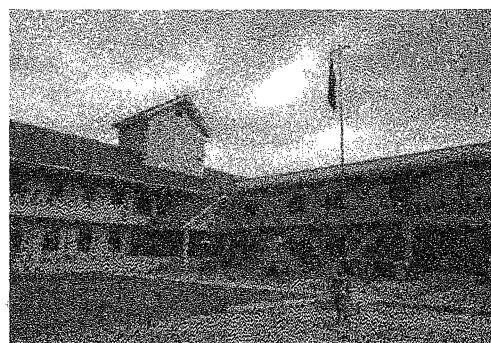


写真1 コンポンチャム州病院 (大石氏提供)

想は「文化を大切にして助産師が関わっていることがわかった」「出産した新生児に行う魔よけの習慣があるということを知った。」「その土地の文化によって医療も異なることがわかった」などであった。



写真2 コンポンチャム州病院の分娩室前室
(大石氏提供)

2) 学部3年生「国際看護論Ⅰ」

看護専門家の講義テーマは「お国変われば看護サービスも変わる」であった。まず地域の保健センターの活動が紹介された。保健センターでは予防接種、妊婦健診(写真3)や分娩介助そして感染症やけがなどの初期治療、マラリア等の検査を行う。カンボジア政府は全ての保健センターに助産師の配属を目指しているが、現状では看護師が中心になって活動している保健センターも存在する。看護師は医師不在のため治療行為を行うことがあり、地域のミニドクターとしての役割も担っている。NGO スタッフとしての日本人看護専門家の役割はスタッフと地域の保健ボランティアの関係づくりをサポートし活動を支援している。具体的にはスタッフの研修、技術指導、業務のモニタリングなどについてである。

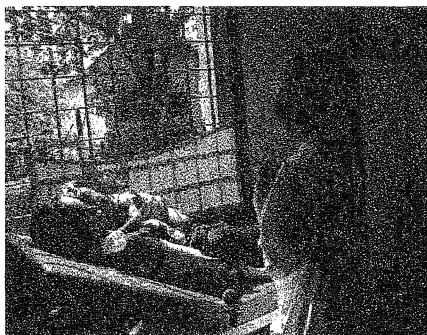


写真3 保健センターでの妊婦健診
(虎頭氏提供)

また病院における看護師の業務も、医師の指示のもとで治療の補佐をすることが中心であり、看護ケアの多くは家族が行っている。プロジェクトは、質の高い医療技術者の教育改善を掲げ、看護関連規則の整備および教員育成の為にタイの大学に留学させ学位取得支援を行っている。14か月間留学して看護学士号を取得した看護師および助産師は帰国後、看護大学や臨床指導者として精力的に活躍している。学部生は「長期間の留学でさびしくならないのか」「帰国後はどんなふうに関護に貢献しているのか」と質問をしていた。看護専門家より、小さい子どもがいる留学生もおり、家族や親せきの協力を得て頑張っていた。また帰国後は病院の管理職として看護の質を上げるように活躍している事が報告された。

3) 国際看護・国際保健教育における遠隔授業の成果と課題

将来、海外で働いてみたいという学生にとって、いきなり現地に赴くにはハードルが高いが、遠隔授業では国内に居ながら現地の専門家とやりとりができる。現地の活動報告を通して開発途上国で求められている看護・助産活動を知り、やりがいや苦勞など実感できる機会となる。学生の反応は「臨場感があった」「写真がたくさんあって生活環境や活動の様子がイメージしやすかった」「国の状況に適した取り組みを聴くことができた」などであり、遠隔授業の学習目標は達成されたと考える。今回は通信事情を考慮して映像の配信は行わなかった。より通信量が多く常時安定した通信が可能になれば映像のやり取りも可能であろう。今後の課題である。

謝辞

お忙しい中ご協力いただきました助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクトおよび医療技術者育成システム強化プロジェクトの専門家の皆様、調整員の皆様に感謝申し上げます。

なお、院生および学部生授業感想文がプロジェクトのニュースレターに掲載された。(助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクト2014年6月号、医療技術者育成システム強化プロジェクト2014年9月号)

5. 引用・参考文献

国際協力機構：カンボジアのお母さんと赤ちゃんの健康のために、プロジェクトパンフレット。

http://www.jica.go.jp/project/cambodia/001/materials/ku57pq00001v7oli-att/pamph_01.pdf (accessed2014-08-27).

国際協力機構 (2014)：技術協力。国際協力機構年報。

<http://www.jica.go.jp/about/report/2014/ku57pq00001nohem-att/50.pdf> (accessed2015.2.15)

国際協力機構：青年海外協力隊派遣実績。

<http://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/results/jocv.html#r03> (accessed2014-08-27).

医療技術者育成システム強化プロジェクト：

<http://www.jica.go.jp/project/cambodia/004/index.html> (accessed2014-08-27).

助産能力強化を通じた母子保健改善プロジェクト：

<http://www.jica.go.jp/project/cambodia/001/index.html> (accessed2014-08-27).

全国助産師教育協議会 (2012)：助産師教育のコア内容におけるミニマム・リクワイアメントの項目と例示。Vol.2.

厚生労働省 (2011)：看護教育の内容と方法に関する検討会報告書。看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標。

宮越幸代、太田克矢、森下孟 (2012)：2010年度に配信した遠隔授業と「国際看護学」の実践報告—授業のシステム運用と授業運営に対する考察—。長野看護大学紀要。14:99-111,

文部科学省 (1999)：「遠隔授業」の大学設置基準における取扱い等について (答申) 大

学審議会。

世界子供白書 2009年統計編：

http://www.unicef.or.jp/library/library_wdb09.html (accessed2014-08-28).

スカイプ：

<http://www.skype.com/ja/> (accessed2014-08-27).

辻村弘美、森淑江、宮越幸代：(2014) 途上国における看護職養成支援のための遠隔教育—スリランカにおける Skype を用いた体位変換技術の評価—。Kitakanto Med J; 64:57-66.

山名香奈美、勝井伸子 (2012) .看護学生が学んだ異文化の医療—国際看護論チェンマイ大学研修報告—。公立大学法人奈良県立医科大学医学部看護学科紀要, 8:57-63